

## 校区内危険マップ作製

2005年12月15日

登下校時の安全を守ろうと、県内のNPO法人と地域住民らが一体になり、伊勢崎市立あずま北小学校の校区内にある危険個所を示した地図を作った。14日に同校で発表会があり、児童にも披露された。

地図づくりには、街づくりに携わるNPO法人「県央都市ネットワーク」(鈴木孝尚理事長)や、ものづくり大学大学院(埼玉県行田市)の田尻要・助教授の研究室などが参加し、10月から住民をまじえてワークショップを開いてきた。

保護者に子どもも加わり、両毛線で斜めに分断されている学区内を2班に分かれて調べた。防犯の視点で暗がりや物陰、交通安全の視点で狭い歩道やふたのない側溝などを地図上におとした。

発表会には、5、6年の児童約160人が出席した。調査に使われた無記入の地図が配られ、田尻助教授が「大人も知らない危ない所を書き込んで、周囲に発信することが大切です」と呼びかけた。



NPOと地域住民が作った危険個所を示す地図を眺める児童  
＝伊勢崎市国定町2丁目の市立あずま北小学校で